



2025. 2. 28

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2113

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

【山口県立山口図書館から臨時閉館のお知らせ】

山口県立山口図書館は、設備改修工事のため、令和6年12月2日（月）～令和7年3月31日（月）の期間、臨時閉館いたします。

《臨時閉館中のサービスについて》

○臨時閉館中は、インターネット・電話を使って予約申込をされた本を、県立図書館の「臨時窓口」で受け取って借りることができます。※詳しい内容は、こちらをご覧ください。→→→

○e-netを使った、県内公共図書館での受取は、これまでと同様ご利用いただけます。

◎お問合せ先・連絡先:山口県立山口図書館総合サービスグループ

（電話:083-924-2114 FAX:083-932-2817 Eメール:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）



《学校等への団体貸出について》

○臨時閉館中も、メールやFAXでお申し込みの上、団体貸出をご利用いただけます。

館内での閲覧や選書はできません。貸出・返却は1階事務室となります。

※詳しい内容は、こちらをご覧ください。→→→

◎問い合わせ・連絡先:山口県子ども読書支援センター

（電話:083-924-2113 FAX:083-932-2817 Eメール:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）



【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（原則：毎月第一火曜日、令和6年12月から令和7年3月まではお休み）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本—乳幼児から>

『とっとここびと』 新井悦子/さく せきぐちひろみ/え 岩崎書店 2024.12 ¥1200

いつもちいちゃんのそばにいる、5にんのこびとさん。あさ、ちいちゃんのほっぺをつついておこしたり、ごはんをこぼしたちいちゃんのおくちをふいてあげたり。ちいちゃんがあくびをしたら、とっとこやってきて、せなかをやさしくとんとんするよ。すると…。身近な大人の指をこびとに見立て、生活の中での親子のふれあいを促す絵本。巻末にスキンシップについてのコラムあり。

<絵本—3, 4歳から>

『それゆけ!ばあちゃんぐんだん!』 ジュディス・カー/作 木坂涼/訳 好学社 2024.12 ¥1700

メグ、モリー、ベス、メイヴィス、ジェーン、マッジ、モードは、いちばんわかくて82さいのばあちゃんたち。それぞれがとくぎをもって、いざとなったら「ばあちゃんぐんだん」としてしゅつどうする。あるひ、メイヴィスはあちゃんが、おみせからケーキをぬすんでいくドロボーをはっけん。ばあちゃんぐんだんのでばんだ!パワフルで頼もしい7人が活躍する愉快な絵本。

<絵本—5, 6歳から>

『そつえんするってことは』 中川ひろたか/作 あおきひろえ/絵 アリス館 2025.1 ¥1500

おかあさんのおなかからでてきて5ねん。ないてばかりだったきみはすこしずつおおきくなって、はしることも、おしゃべりも、ともだちとあそぶのもじょうずになった。もうすぐそつえんだ。そつえんするってことは、きみがおおきくなったってこと、これからもっともとおおきくなるってこと。幼稚園・保育園を旅立つ子どもたちの成長を振り返り未来を寿ぐ、祝辞のような絵本。

<絵本—小学校低学年から>

『満ちている』 ただあやの/作 小さい書房 2024.11 ¥1600

カップさんはおばあさんの家のティーカップ。紅茶を供する仕事にほこりを持っていたが、ある日、庭でのお茶のじゅんぴ中に鳥にさらわれてしまう。草むらにおいていかれ、自分が自分でなくなったように感じる日々をすごしながらも、少しずつ前向きなきもちがめばえ…。変化を受け入れ新たなアイデンティティを確立するまでを丁寧に描く絵本。画家である作者の絵本デビュー作。

<絵本—小学校中学年から>

『さんになだけのないしょのはなし』 スーヅィ/作 BL出版 2024.12 ¥1500

みっちゃん、トラちゃん、タエちゃんの幼なじみ3人組は、今はお年寄りのための家で一緒に暮らしている。ある日、庭の向こうの竹林へ足をふみ入れた3人は、いつの間にか子どもの姿に戻っていた。竹林を抜けると、幼いころのままの懐かしい景色が広がっていて…。現実と幻想の狭間をたゆたう絵本。第40回「日産童話と絵本のグランプリ」絵本の部大賞受賞作を改題し出版。

<こども外国語資料>

『HOKUSAI'S DAUGHTER 北斎の娘』 SUNNY SEKI/著 チャールズ・イー・タトル出版 2024.12 ¥2300

栄女(後の葛飾応為)は、世界にその名を轟かせている浮世絵師・葛飾北斎の娘で、美人画では父北斎をも上回る評価を受けるほどの優れた画家である。女流画家が少なかった江戸時代に、父の傍らで、絵描きとなるべく努力する栄女の幼少期の逸話を描いた英語と日本語のバイリンガル絵本。巻末には、北斎の作品や木版画の制作方法、達磨や鯉に関する英文での解説あり。

<読み物ー小学校低学年から>

『ぼくはクルルをまもりたい』 なりゆきわかこ/文 いりやまさとし/絵 ポプラ社 2024.12 ¥1200

アライグマの駆除を呼びかけるポスターを見た小学2年生のしょうた。しかし、神社の床下に隠れたアライグマを見つけたしょうたは、弱々しい声についクッキーをあげてしまう。餌を与え続けること数日、ついにお母さんに知られてしまい…。動物をかわいと思う気持ちと、害獣に餌をあげてはいけないという少年の葛藤を描く。動物愛護や飼育の責任を考えるきっかけとなる物語。

<読み物ー小学校中学年から>

『おばあちゃんのあかね色』 楠章子/作 あわい/絵 佼成出版社 2024.11 ¥1400

認知症になったおばあちゃんを引き取り、両親と支えながら暮らすことになった杏。おしゃれなおばあちゃんと話すことを楽しみにしていた杏だが、以前とは異なる様子に戸惑う。おばあちゃんらしさを損なわないよう杏はおばあちゃんのコーディネートを考えてようになって…。祖母の認知症をきっかけに、症状に向き合うことや自分にできることを考え行動する少女の成長物語。

<読み物ー小学校高学年から>

『ぼくの中にある光』 カチャ・ペーレン/作 原田勝/訳 岩波書店 2024.11 ¥1600

感情の起伏が激しいゾフィアは幼い頃に母親を亡くすも父と楽しく暮らしていた。一方、内向的なトムは暴力的な実父から逃げ母と二人の生活を送っていた。親同士の交際がきっかけで突然家族となる二組の親子。互いを受け入れられないゾフィアとトムだが、いくつかの出来事を経て向き合っていく。葛藤しながら成長していく様子が、主人公二人の交互の視点から綴られる物語。

<読み物ー中学生から>

『3倍速ドッペルゲンガー』 久米絵美里/著 アリス館 2024.11 ¥1500

近未来を3倍速で再生視聴する「ドッペル再生」が可能になり、予測して行動することが当たり前の世界。高1の明人(めいと)は目立たない少年だが、クラス一のインフルエンサー有空(ありあ)に声を掛けられ、「ドッペル禁止ゲーム」に参加することに。予測できない未来に戸惑いながらも楽しむ参加メンバーだが…。デジタルに依存することの影響について考えさせる物語。

<ノンフィクションー小学校低学年から>

『ひろい海にぼくたちは生きている』 長倉洋海/作 アリス館 2024.12 ¥1800

東南アジアに広がるスルー海、赤道直下のカピンガマランギ環礁の島、アフリカのマダガスカル島の海で暮らす人々の生活を紹介する。小さな船で海を自由に行き来し、友達と海に飛び込んだり、砂浜で楽しそうに踊ったりする子ども達の様子等が躍動感あふれる写真と詩的な文章でつづられる。3つの海をめぐり海と共に生きる人々のたくましさ伝える写真絵本。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『ゆるめて解決!ゆるスポーツからはじめよう』 世界ゆるスポーツ協会/監修 ほるぷ出版 2024.12 ¥3600

だれでも、どんな人でもスポーツを楽しめるように開発された「ゆるスポーツ」。体や気持ちの理由、施設や時間などの環境的な理由でスポーツを楽しめていない人達が様々な要因を「ゆるめて、変える」工夫について紹介する。500歩サッカー等のゆるスポーツについての楽しみ方や写真、動画(二次元コード)での解説も掲載。ゆるめて解決する新たな考え方に会おう!1冊。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『使ってクール!外来語』 吉橋通夫/文 たかいよしかず/絵 童心社 2024.12 ¥2200

もとは外国語であったものを「日本語」として使うようになった「外来語」。アップデート、オンライン等、身近に使う外来語のものと、の言語や意味、語源、使い方について「なんじゃもんじゃくん」をはじめとするキャラクター達の会話形式で紹介する。4コママンガ、外来語コラム、クイズも掲載され、読み進めるうちに自然と外来語についての知識が深まる1冊。巻末に索引あり。

<ノンフィクションー中学生から>

『これから大人になるアナタに伝えたい10のこと 自分を愛し、困難を乗り越える力』 サヘル・ローズ/著 童心社 2024.11 ¥1500

著者は1985年イラン生まれ。戦災孤児となり、8歳で養母と共に来日し、女優として活躍する一方、個人での支援活動が評価され、2020年にアメリカで人権活動家賞を受賞。彼女の活動の背景にあるのは、故郷でも日本でも「異物」として扱われ、貧困と孤独を味わったこと。困難な状況の中で今を生きる子どもたちへ、命と平和の尊さを伝えるメッセージを綴ったエッセイ。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

